

気候危機～

世界の大人たちの責任が問われている！

9月23日、ニューヨークでは、国連の気候行動サミットが開かれ、77カ国が、2050年にCO2などの温室ガスを「**実質ゼロ**にする」目標を掲げたが、日本の2050年目標は再検討されず、80%止まり。

ヒューゴ観測研究所所長フランソア・ジェメン氏は、「海面上昇に関しては、帰郷という選択肢のない人口移動になる」と語った。

世界の海洋水位は、1900年以降15～20センチ上昇。原因は、水温上昇による海水の膨張だったが、今では、グリーンランド及び南極大陸の氷床が溶けることで、海面が上昇している。国連の報告によると海面の上昇速度も加速しており、この10年で、過去100年間の3倍近くに増大しているとのこと。パリ協定では、上昇を2度未満、可能なら1.5度に抑えることにしているが、現状では難しいようである。気温が、3～4度上昇すると海面の上昇幅は1m近くになり、沿岸部の多くの巨大都市では、大規模破壊が発生し、多くの島国での居住が不可能になるとのこと。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告書草案によれば、22世紀には海面上昇速度が、現在の3.6ミリの100倍も急加速する可能性が、高いという。米国の気候研究機関によると最終的に2度に抑えてもおそらく6メートルの海面上昇につながり、2億8000万人が、現在居住している地域を水没させるほどの海面上昇が、起こるのは避けられないとのこと。

さて9月中旬、上勝神山の風力開発の工事現場での研修会に参加し、現状を視察した。佐那河内村から入った現場では、木が切りだされてトラックが行き来していた。山は、切り崩されて無残な有様だった。そのうち尾根づたいに風車設置のための分厚いコンクリートが埋め込まれるだろう。資材輸送や風力発電の管理の道路を造るために、山が崩されていく様は、「環境破壊」。新しく造られた道からは、「四国のみち」が消えていた。

他所から来た会社が、地元の自然資源を利用し、利益はすべて東京へ。自然エネルギーのため、自然が破壊されていく。未来のために自然とエネルギーが、共生していけるようなあり方を地元で、ともに追求していかなくていけない。

藤永知子

吉野川「ここは天国なのか」

今から何年前だったのだろうか... その日は四国の沖のまだずっと先、台風になる前の熱帯低気圧から、気持ちの良い風と、ロングボードで波乗りするにはちょうど良い小ぶりの波が川のまん中の洲の上（今度の新しい橋の橋脚のあたり）で割れていた。

夕方になりきる前の午後の良い時間、いつものロングボーダーたちはまだ仕事中。しばらくは一人で楽しめそうだ。

そう、ここは吉野川の河口。広大な砂洲と干潟はシギやチドリなどの渡り鳥が多く集まり、シオマネキなどの貴重な生きものの生息地となっている場所。そして、波のある日は、県内外からサーファーという生物も多く集まってくる。



新しい橋ができる前のこの波は最高だった。ハードではないポイントブレイク、ゆっくりとしたテイクオフから、後は重たいロングボードをストールさせるだけ... どこまでも どこまでも続くやさしい波、途中でやめないと、帰ってくるのが大変だけど...

「ここは天国？」なんてそう思ったことだろう。満月の夜のナイトサーフィンも最高だ。一人で月夜に波乗りしていると、どこか違う世界に連れていかれそうで少し怖かったりする。

イルカに出会い、ウミガメを見つけ、ハンマーヘッドシャークの群れに出会ったことだってある。SUPで70cmのシーバスを釣ったポイントは、今では砂がたまり水は流れていない。

新しい橋が架かり、またもう一本新しい橋ができるそうだ...。今は昔みたいに一本のショルダーの張った波はやってこないけど、今でも大好きな場所というのは、変わりはない。

四国の沖をゆっくりと低気圧が通って行く。明日はたぶん良い波...。日本中を探したってこんな素敵な場所はめったにないはず。

Yes! keep Paddling! Peace 😊



豊富 正史

～吉野川礼讃 17～

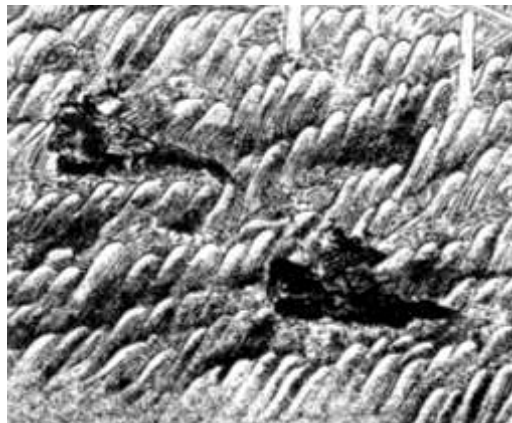
中流域 美馬雑感

去年の岡山真備町に続き、今年も北九州に洪水、氾濫があった。線状降水帯はその気圧配置と地形等のからみで同じところにかかり続け、雨は集中してしまう。まだ鎮火とならないアマゾンの大火災は、地球の温暖化にさらに拍車がかかるだろう。その悪行は、人のなせる業であり、救い難い。

昔人は、旱魃に泣き、大雨に苦しんだ時、請雨を祈って白い馬の止雨を願って、黒い馬の絵馬を神に奉納したという。

止雨を祈って、黒い馬の話少々。吉野川中流域に美馬市（かつての^{ほほ}美馬郡）がある。美馬町には「段の塚穴」と呼ばれる太鼓塚、棚塚、徳島で最大級の円墳（国史跡）がある。その西には^{こおざと}群里の地名と法起寺式という伽藍配置の群里（立光）廃寺がある。古代にはこの辺には一大文化圏あっただろう。

また、『平家物語』に^{いけづき}生食（生月）に乗る佐々木四郎高綱と^{するすみ}磨墨に乗る梶原源太景色の宇治川の先陣争いの場面がある。二頭とも名馬である。この争いに勝って宇治川を一番に乗り切った黒栗毛の生食の母馬がこの美馬の牧の産であるという伝承がある。



美馬の東は脇町であるが吉野川中流きっての町である。讃岐高松よりまっすぐ南下し、阿讃山脈と清水峠で下ると脇町である。吉野川との往來の結節地点である。（江戸期には愛の繁栄もしかりである）

私ごとであるが、祖母は美馬から脇町へ、母は脇町から徳島へ吉野川を下って来た。

今日も私にとって吉野川は青く美しい。

河野眞理



おいしい吉野川

牡蠣 (カキ)



第十堰より下流にはコンクリートや石垣にカキが棲息している！ 河口上流では塩分の濃い底近くに、下流には底から表層近く干潟線一杯まで付いている。かつて吉野川のカキと言えば、河川改修工事の前の古い堤防や屋敷跡の青石垣が現在のしらさぎ大橋の下流の川底に在り、そこに真ガキが群生し漁師たちが鍬で取り各地へ出荷していた。実は大きく味はとても良い。

全国のカキの産地には、それぞれそれぞれ特別に美味しいカキが取れる場所があり、そのすべてが河口汽水域で、あま〜い水で育つ。吉野川は美味し貝の条件が揃っている。ただ、その底石群は20年程前に砂に埋もれ大型カキは埋もれたままになっている。暴れ川のため養殖もままならない。しかし、下流両岸のテトラポットや石垣にはまだ小型ながら沢山ついているため、10月末から3月にかけての大潮の干潮時に取りに行ってみるのも良い。

実を取り出すのは、最初は失敗するが貝柱の位置がわかれば簡単に取れる。個性的なカキがちゃんと法則通りに育っているので、法則を解き明かしながらの作業が楽しいと思う。道具はマイナスドライバーで代用。海水できれいにあらひ、持ち帰ってどうぞ!!

ただし、いくら旨いといえ生食はお勧めできない。がまん我慢。

過熱が基本。鍋やフライで食べれば最高！ レモン醤油をかけて召し上げれ。

秋から春先の川のめぐみ。我が家の楽しい思い出もある。

美味しい吉野川 ごちそうさま

さちのちち

イベント報告とお知らせ 報告

9/29	総会	沖洲マリニピア マリンホール
10/25	吉野川最河口お月見会	広大な最河口の姿を惜しみつつ
10/26	ウラギク鑑賞会	何時か消えていくのだろうか
1/31~2/5	吉野川を感じようⅡ ラムサール展	とよみ珈琲 2階ギャラリーにて
4/7	和田恵次先生の学習会	「海と陸・川の狭間に生きる動物たち…」
4/21	春のウォーキング 吉野川を楽しもう	日本野鳥の会徳島県支部の協力
5/19	助任やさき干潟で遊ぼう	130名の参加者で楽しみました。
7/7	吉野川一斉清掃	吉野川南岸 助任干潟周辺
8/3	シオマネキ市民調査	吉野川南岸 住吉干潟
8/10	赤ちゃんしおまねきを教えよう	吉野川南岸 住吉干潟
9/14	稚シオマネキ調査 (8/31雨天のため)	5mm以下の稚シオマネキを数調査

今後の予定

2019.9.28	総会 上月康則徳大教授の講演	徳島県民プラザ 1階 研修室
10~11	ウラギク鑑賞会	時期は随時にお知らせ
2020.4	春のウォーキング	春のラムサールウォーキング
2020.5	助任やさき干潟で遊ぼう	助任本町7丁目地先
7.8月	シオマネキ、稚ガニ市民観察	

会員募集中 会費：1口1,000円

- お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
- 振込先：ゆうちょ銀行
吉野川ラムサールネットワーク
口座番号 01640-6-52973

吉野川ラムサールネットワーク

- 事務局 藤永知子
- Tel : 090-7268-9448
- Email : taikazann@hotmail.com
- HP: [http:// www.yoshinogawa-ram.net](http://www.yoshinogawa-ram.net)
- facebook 吉野川ラムサールネットワーク